

「楽しく実践できる音楽づくり授業ガイド」 (教員向け映像指導資料) について

このたび、国立教育政策研究所教育課程研究センターでは、小学校音楽科の表現領域である「音楽づくり」の授業の更なる充実に資するため、標記指導資料を作成しました。同研究所が小学校音楽科について、教員向け指導資料を作成するのは、今回が初めてとなります。

今後、本指導資料を全国の教育委員会等に配布し、小学校音楽科の更なる推進・充実に努めます。

1 作成の趣旨

小学校音楽科の表現領域は、「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」の3分野で構成されています。中でも「音楽づくり」は、音や音楽の見方を広げていくことができ、友達と協同の喜びを実感することができる音楽科にとって大切な教育活動です。

しかし、教師の多くが「音楽づくり」の授業を経験していないことや、具体的な指導法や活動における子供の姿をイメージしにくいことなどから、教師にとって指導が難しい内容となっており、音楽づくりの授業が必ずしも効果的に行われていない状況が散見されます。

こうした状況を踏まえ、本指導資料では、「音楽づくり」の指導のポイントや留意点などを映像を通して具体的に紹介しています。

今後、各小学校で本指導資料が有効に活用され、「音楽づくり」の授業が効果的に展開されることを期待しています。

2 主な特徴（内容については別紙参照）

- 低学年・中学年・高学年の事例を4事例ずつ、計12実践収録（収録事例については別紙参照）
- 「音楽づくり」の指導過程を映像で分かりやすく紹介
- 具体的な教師の指導場面をクローズアップ
- 指導上の留意点や子供の表現のポイントなどをテロップで明確化
- 共に学び高め合う学習場面を多数紹介

3 今後の予定

- 都道府県及び市区町村教育委員会等に送付（12月中）

(お問合せ)

国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発課長 五十嵐祐子 電話：03-6733-6821（直通）

研究開発課指導係長 伊倉 剛 電話：03-6733-6825（直通）

〔広報担当〕企画室 企画・広報係 電話：03-6733-6925（直通）

「楽しく実践できる音楽づくり授業ガイド」収録事例について

事例	学年	題材名	概要とポイント
事例 1	1年	耳をすましてつくろう ～身の回りの音の面白さを声で 表す～	身の回りにある様々な音を聴き、その音の面白さを擬声語や擬態語で表し、それを生かして音楽をつくります。先生が子供の表現をよく聴き、そのよさを認め、友達と共有するようにしながら、表現を高めていきます。
事例 2	1年	「といかけあうた」をたのしもう ～わらべうたを使って～	友達とわらべうたの問いと答えの表現を楽しみ、遊びの発展として自分たちのわらべうたをつくります。表現のよさを認め合いながら、「といかけあうた」を二人組や一人二役でつくって楽しめます。
事例 3	2年	といとこたえで楽しもう ～手づくり楽器を使って～	歌唱や鑑賞で学んだ「問いと答え」の面白さを生かして、音遊びをしたり簡単なリズムの音楽をつくったりします。紙コップの手づくり楽器の音に耳を傾け、まねっこ、おしゃべり、リレーなどの仕組みを生かしてつくります。
事例 4	2年	くだものリズムでつくろう ～言葉のリズムを工夫して～	身近にある果物の言葉を使ってリズム遊びをし、言葉のリズムや声の出し方を工夫して音楽をつくります。一つの言葉からいろいろなリズム、声の高低、強弱が生まれる面白さを感じ取り、友達と声を合わせてつくる楽しさを味わいます。
事例 5	3年	リコーダーでせんりつをつくろう ～ソ・ラ・シの音を使って～	リコーダーのソ・ラ・シの音で即興的な表現を楽しみ、音楽の仕組みを生かしてまとまりのある旋律をつくります。グループで、まねやサンドイッチといった旋律のつなぎ方を工夫して、音楽をつくっていきます。
事例 6	3・4年 複式	図形の楽ふでつくろう ～音楽の形を考えて～	図形に合う音の出し方を工夫したり、いくつかの図形を組み合わせたらしながら、打楽器の音楽をつくります。打楽器の音色や響きを生かし、演奏の順序や音の重ね方、強弱などを工夫して音楽をつくっていきます。
事例 7	3・4年 複式	打楽器でつくろう ～リズムアンサンブルをつくる ～	打楽器の音色の組合せを工夫して、即興的に表現したり、リズムアンサンブルをつくったりします。打楽器の音の響きやその組合せを楽しみ、グループで重ね方を工夫しながら、まとまりのある音楽をつくっていきます。
事例 8	4年	日本の民ように親しもう ～自分たちの「生活のうた」をつ くる～	民謡を聴いたり歌ったりしてそのよさを味わい、民謡で使われる音階を用いて、自分たちの生活のうたをつくります。声の出し方を工夫したり、掛け声や揺れ、手拍子などを加えたりして、民謡らしいうたづくりを目指します。
事例 9	5年	ボディパーカッションでつくろう ～反復のリズムを重ねてカノンの 音楽をつくる～	体から出る様々な音を試し、リズム/パターンの反復や変化を工夫して、カノンのリズムアンサンブルをつくります。ボディパーカッションによって生まれるリズムや体の動きを生かし、様々なカノンの表現の面白さを味わいます。
事例 10	5年	ことの音楽に親しもう ～日本の四季を表した音楽をつ くる～	鑑賞や器楽の学習を基に、調子の違い、問いと答え、間を生かして ^{まじ} 箏の音楽を二人組でつくります。友達が悩んでいるところをみんなで解決することで、音楽表現が深まり二人組の音楽がまとまっていきます。
事例 11	6年	声のアンサンブルをつくろう ～発声や発音の仕方を生かして、 声を重ねてつくる～	50音の発声や発音の仕方に着目し、基準とする音から高い音や低い音をつくり、いろいろな声を重ねて音楽をつくります。互いの表現を認め合い、声の重ね方、強弱、速度、全体の構成などを工夫し、グループの音楽を高めていきます。
事例 12	6年	くり返しの和音進行でつくろう ～I-IV-V-Iをもとに旋律をつ くる～	I-IV-V-Iの和音進行に合わせて、即興的に表現したり、一人一人が8小節の旋律をつくったりします。三つの音でつくる、グループでつくる、そして一人で8小節をつくる、という学習の過程を大切にしています。